



創立1880年

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館6階

Tel 03-6302-1960

URL <http://tokyo.ymca.or.jp/>

発行所 公益財団法人

東京YMCA

発行人 菅谷 淳

東京YMCA

6

2018年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

全国から広島へ 折り鶴2万羽



平和週間プロジェクト

全国のYMCAは4月、「平和週間プロジェクト」〜折り鶴でつなげる平和への思い〜のために各地で一斉に折り鶴作成に取り組み、できあがった約2万2千羽を、5月5日に広島で開催された「原爆の子の像」建立60周年記念式典に献納しました。

この「原爆の子の像」は1958年、被爆により12歳で亡くなった佐々木貞子さんのため、当時の広島YMCA会員や同

全国から寄せられた2万2千羽の折り鶴（撮影 広島YMCA）

4月に開始した「下町子どもダイニング」の紹介をする東陽町の会員たち



「ユース・ボランティア・オブ・ザ・イヤー」の表彰



会員活動の活性化目指し

会員大会

「第16回会員大会」が5月26日、改修工事を経た東陽町センターを会場に開催され、東京YMCAを支える会員115人が集まりました。

今年のテーマは「会員によるYMCAを知ってもらう大会」。会員活動の活性化が東京YMCA中期計画の重点項目とされる中、会員部運営

委員たちは魅力ある大会にするため検討を重ね、準備にあたりました。第2部では介護予防体操などYMCAの活動を紹介するブースを4カ所

設置。会員同士で情報や意見を交換しました。「東陽町コミュニケーションセンター」のブースでは、7月から開始予定の「認知症カフェ」や、子育て中の在日外国人のための「ウェルカム・カフェ」など新規プログラムを紹介。4月から新しく事務所をかまえた同センターは、今後もさらに地域ニーズに応え得るプログラムを開発していく計画であり、他センターの会員たちにも広くアイデアや協力を求めました。

今年度の会員部運営委員には下記の17人が選ばれ、名誉会員は越智京子さんが推挙されました。

17年度の「ユースボランティア・オブ・ザ・イヤー」は下記5人が受賞。また「ボランティア・オブ・ザ・イヤー」は、会員部運営委員長や理事として活躍しながら今年3月に召天された村杉克己氏が受賞し、ご夫人の村杉一榮さんに表彰状が贈呈されました。（12面「村杉さんを偲ぶ」）

第3部は、卒業生を含むボランティアリーダーたちが活動紹介やキャンブソングを披露したほか恒例のサイレントオークションなどで楽しい交流の時を過ごし、各地での活動推進を約束して閉会となりました。

ユース ボランティア・オブ・ザ・イヤー Youth Volunteer of the Year

※カッコ内はリーダーネーム

かわ み の り
粉川 美乃里さん（シナモン）／江東センター
野外グループ活動、シーズンキャンプの他、江東親睦会等様々なイベントを盛り上げてくれました。いつも落ち着いて判断・行動し、保護者からも大きな信頼を得ています。

ほりこめ な な
堀米 奈々さん（ちゃい）／山手センター
特別支援の野外グループ活動を中心に、キャンプや山手センターの諸活動に意欲的に参加。いつも笑顔で子どもたちや保護者、リーダーから慕われています。

こめい ち さ ち よ
古明地 祥代さん（こだま）／西東京センター
小学2年から多くのキャンプに参加したつながりからリーダーになり、シーズンキャンプや特別支援プログラム等4年間に渡って活躍しました。

やました まい
山下 舞さん（くるとん）／南センター
幼児定例野外活動のリーダーとして今年で3年目。人が気づかないことによく気づき、誰かのために自ら率先して行動することのできるリーダーです。

なかにま え り か
中島 瑛莉香さん（りす）／東雲センター
東陽町センターでリーダーになり、東雲センターへ事業移管後も続けて参加。経験者の「異動」で子どもたちや保護者は安心してキャンプや活動に参加できました。

名誉会員に推挙

おち
越智 京子さん



本紙4/5月号「私とYMCA」で紹介した越智京子さんが今年度の名誉会員に推挙された。越智さんは、学生時代に福岡YMCAでボランティアリーダーとなり、結婚後は家族で東京YMCA山手センターの活動に参加。会員増強委員や運営委員などを歴任した。特に「わくわくサロン」では発足以来15年にわたり歌の指導を担う。東日本大震災後は「歌の広場 in 石巻／女川」を継続して開催し被災者を励ます。また「東京たんぼぼYサービスクラブ」を立ち上げ不登校など青少年の居場所「liby」を支援している。

＊越智さんの紹介は下記に掲載しています。
http://tokyo.ymca.or.jp/about/interview_ochi.html

2018年度会員部運営委員

◆再任（13名）

相川 達男	上田 晶平
小原 史奈子	小原 武夫
工藤 大丈	篠田 秀樹
高橋 伸	東矢 高明
中村 周三	長谷川あや子
林 正人	宮谷 直幸
綿引 康司	

◆新任（4名）

青木 方枝	笈川 光郎
木村 光晴	蔵知 浩

◆退任（7名）

柿沼 敬喜	金丸 満雄
菰渕 光彦	直井 道子
中村 孝誠	村杉 克己
山口 直樹	

＊任期満了

金丸 満雄
直井 道子
村杉 克己

赤△三角

「ボスは恐怖をおり、リーダーは情熱をかきたてる。（中略）ボスは『これをやれ』と命令し、リーダーは『これをやろ』と促す。何事にもリーダーは必要だがボスはいらない」。1966年に発行された「キャンブカウンセリング」の一部である▼昨今、スポーツや教育の現場で体罰やパワハラなどのニュースが絶えない。私自身も学生時代は運動部で上級生やコーチ、監督の言われるままに厳しい練習に明け暮れた。大学3年の頃YMCAのキャンプに出会った。話し合いを大事にすること、楽しさの中に成長の機会があること、子どもたちの気づきを大切にすること等、あまりのギャップに驚いた▼リーダーは「静かにしろ」なんて怒鳴らない。楽しい話をすればみんな静かに聴く。リーダーが歌えば皆も歌う。グループワークに基づいた組織キャンプの奥深さを学んだ▼2020年、日本のYMCAはキャンプ100周年を迎える。長年にわたり研究と実践を重ねてきたこの指導法をもっと世の中に広めたい。一人ひとりが楽しく成長できることは、YMCAが目指す「ポジティブネット」のある社会の、大きな力になるはずだ。（山手コミュニケーションセンター主任 星住秀一）

卒業リーダーに聞く

～Y M C Aのボランティアリーダー体験談～

「Y M C Aユースボランティアリーダー」として活躍し、4月から社会人になった“卒業リーダー”に、印象に残った体験などを聞きました。

*文末の()内はキャンプネーム (聞き手・文 広報室)



【ボランティアリーダー（通称：リーダー）とは】

Y M C Aのトレーニングを受けた学生ボランティアで、野外活動やスポーツなどさまざまな分野で活躍しています。事前準備のためリーダー会を重ね、当日は子どもたちのグループに入って一緒に活動し、先生や保護者とは違う立ち場でプログラム指導や安全管理を担う、頼れるお兄さん・お姉さんです。リーダーの詳細は⇒ <http://tokyo.ymca.or.jp/volunteer/volunteer-leader.html>

社会で役立つ話し合いの力



石川奈都歩さん

リーダーとして3年間、キャンプや野外グループ活動、バザーなどに参加しました。一つのキャンプのために10回くらい「リーダー会」（準備会）をして、どんなキャンプにしたいか、どんな歌やゲームを選ぶかなど、何時間もかけて話し合ったことは、いい経験になりました。私はもともと自分の意見を積極的

全力で子どもと向き合った体験



八木田好葉さん

ともありましたが、いろんな意見を聴くことで自分の視野が広がったし、卒業しても分かり合える大切な仲間ができた、今あらためて実感しています。山や川に出かけて自然保

先輩の紹介でリーダーになり、キャンプや学童クラブ、障がいのある方の活動などに参加。今は保育所で働いています。

障がいある子との出会いから



古明地祥代さん

小学生の頃からキャンプに参加。大好きだったリーダーたちに誘われ、大学生でボランティアリーダーとして活動を始めました。ところが障がいのある子どものキャンプ

育をする園なので、Y M C Aでの活動を思い起こす瞬間がたくさんあります。

リーダー活動で印象に残っているのは、あるキャンプでグループに参加しない小学生がいたときのこと。困った私はその子と二人で真剣に向き合

4月からは、障がいのある子どもたちの気持ちに寄り添いたいと思い、東京Y M C Aの「放課後等デイサービス」さくら国立」でスタッフをしています。

皆で創るから達成感がある



中村 薫さん

印象に残っているのは、キャンプ中に部屋で新聞をビリビリにして雪にみたて、雪合戦や雪だるま作りをした時のこと。それまで静かだった子どもの顔がバツと明る

た声のかけ方など、リーダーとして子どもたちと楽しく過ごした経験の数々が役にたっています。私は学生時代、他団体でリーダーをしたことがあったのですが、当日だけ参加して決められたシナリオどおりに実行していく役割で、達成感が違いました。Y M C Aは10回くらいリーダー会をし

色んな意見に出会う楽しさ



菅野 攻太さん

大学の先輩に誘われて、子どもと一緒に遊ぶのは楽しそうだと思い、リーダーになりました。小学生のキャンプで舟の工作をしたとき、「タイヤをつけて水陸両用にしよう」と提案した子がいました。そんな子どもたちの面白いアイデアをど

子育てコラム



多文化な園での取り組みと工夫

さまざまな国籍の子どもたちが通う英語幼児園「東京Y M C Aインターナショナルキッズガーデン」には、「Know and Tell（見せて話す）」というプログラムがあります。自分の作品などを皆の前で発表することで、話す力や聴く態度を養い、世界の人たちの円滑なコミュニケーションを育てていく、欧米で行なわれているカリキュラムです。

発表内容も各自で準備します。工作や絵画、楽器演奏など多彩な発表が並ぶ中、先日3歳クラスのKくんは、「今日はばくのお母さんの誕生日だから、ハッピーバースデーの歌をお母さんの前でみんなと歌いたい」と先生に提案。お迎えに来たお母さんを教室に招き、全員で大合唱しました。事前に何も知らなかったお母さんは、このサプライズに大喜びでした。歌でお祝いするというアイデアを思いつ



総主事カフェ

東京Y M C A総主事 菅谷 淳

総主事カフェによるこそ今から30年前のことです。結婚し子どもが生まれたら、買おうと決めていたものがありませんでした。それは「ホワイトボード」です。それもホーロー製で150×90センチの本格的なものです。

私は子どもの頃、新聞の折り込み広告の裏に字や絵を描くのが好きでした。当時裏が白い広告紙を探したのは大変でした。そこで子どもができたら彼らが何でも自由に表現できるようにホワイトボードを買おうと思っていたのです。長男が生まれた1988年以降、私たち家族は5回引っ越ししましたが、我が家の食卓にはいつもこのホワイトボ

た。娘が「ねえ、これどうやって解くの」と数学の図形問題を聞いたら兄が解き始め、翌朝起きたらまだやっていないでこともありました。ボードの左上隅には犬の散歩の回数、お風呂掃除の回数が「正」の字で書かれていて兄弟3人のお手伝いの進み具合が分かりました。回数の少ない人は非難されますが、「お兄ちゃんはお勉強だから代わ

PICK UP NEWS

「東京YMCAメールマガジン」に掲載した情報の一部をお届けします。

＊メルマガへの登録・バックナンバー閲覧はこちらから⇒
<http://tokyo.ymca.or.jp/about/backnumber.html>



■肢体不自由児がスポーツ体験

日本代表選手らが指導。



障がいの有無にかかわらず誰もがスポーツを楽しめるよう願って、三菱商事と東京YMCAが共催で5月3日、肢体不自由児とその家族を対象に「第3回ドリームキャンプ」を実施しました。会場はBrillia（ブリリア）ランニングスタジアム（江東区）。パラリンピックメダリストや日本を代表するアスリートたちの指導で、20家族58人が陸上競技用車いす（レーサー）などを体験。今年はスローレーベル主催のエアリアル体験（ブランコ状に吊るされた布に乗って体幹を鍛えるトレーニング）や、バーベルを使った筋力トレーニングも行いました。参加者たちはこの日を楽しみにしていたようで、朝の集合時から笑顔が溢れ、どの種目にも意欲的に参加していました。

シドニーオリンピック金メダリストの高橋尚子さんも来場し、一人ひとりに声をかけたほか、「現役時代は毎日、朝晩1000回ずつ腹筋をした」と練習の大切さを話してくださり、参加者たちは驚いたり、感心したり。

東京YMCA社会体育・保育専門学校の学生やキャンプのボランティアリーダーたちは、日ごろの経験を活かして参加者のサポートやレクリエーションを担当。終了時には「また、来年も参加したい!」「次はぜひ1泊で!」「東京以

外での地域での開催を!」と多数の感想が聞かれ、盛況の中、無事に終えることができました。
(山手センター 大津桃子)

■神田川船の会

変わりゆく東京港を 230人が周遊

昔、交通の要路だった神田川を巡る歴史クルーズ「神田川船の会」。1979年から年2回「東京グリーンワイズメンズクラブ」の後援で開催しているこの会が、第77回のクルーズを5月12日に開催。千代田区親子学習の皆さんほか計230名が午前午後に分かれて乗船。浅草橋を出発し、神田川、日本橋川、隅田川の歴史情緒あふれる景色や橋の由来などを鑑賞した後、東京港を周遊し、新豊洲界限を眺めて隅田川へ戻りました。



今年設立45周年を迎えたグリーンクラブの布上征一郎さんは「豊洲市場の移転やオリンピックなど、東京港の水運状況も変化が予測されますが、初心を忘れず丁寧で楽しいガイドを行ってきたい」と“老舗”の心意気を語っています。次回は10月13日に開催予定。

■江東親睦会

「ひろげよう 江東の"わ"」

江東YMCA幼稚園や江東コミュニティーセンターにつながる人たちが、模擬店や子どもコーナー、ビンゴ大会などで親睦をはかる「江東親睦会」。今年度は5月19日「ひろげよう 江東の"わ"」をテーマに開催。会員や園児保護者など有志



による委員会が数カ月前から準備にあたりました。

当日は、幼稚園児や卒園児とその保護者、白木蓮（「母の会」の歴代会長の会）、サッカークラブ保護者、東京江東ワイズメンズクラブ、ボランティアリーダー、元江東センタースタッフなど、大勢の方の協力で、多数の魅力的なブースが並び、楽しく有意義な交流の時となりました。

■「クリーンウォーク」

東陽町センターで新規スタート

東陽町コミュニティーセンターでは、5月から新規プログラム「クリーンウォーク」をスタートしました。毎月第2金曜日の昼に30分、東陽町センター周辺の清掃活動を行なう活動で、初回の5月11日は、にほんご学院の留学生など18人が参加。通りがかりの方に「いつもこの通りがきれいなのは、あなたたちのおかげなのね。素晴らしい! どうもありがとう」と声をかけられた留学生が、「またやります」と日本語で応える微笑ましい光景もありました。



小さなお子さまから高齢者までどなたでもできるボランティアです。次回は7月13日12時45分～13時15分。ぜひ一緒にどうぞ。

(東陽町コミュニティーセンター 沖利柯)

東京-NY フロストバレー便り

3月11日に東日本大震災の復興支援のために、日本食スーパーの前でYRMメンバー（中高生の定例活動）12名とベイクセルを実施した。ベイクセルとは主に学校や公益団体がクッキーなどの焼き菓子を販売し資金を収集する活動のことでアメリカでは駅前や住宅街でよく見かける。YRMメンバーは前日に集まり、大人のボランティアから指導を受けながら合計300個のクッキーを焼き565.46ドルを売り上げた。

彼らは同世代の仲間たちと集まれる毎月の活動をとても楽しみにしていて熱心に参加する。しかし友だちとのお喋りに夢中になったり、思春期特有の恥じらいがあり、募金活動なのに通り過ぎる人に全く声をかけず、募金をしてくれても大きな声でお礼を言わず、思わず「やる気はあるのか!」と私の焦る気持ちが前面に出てしまった。この時、私は達成感の押し売りをしてしまったなあと反省した。一生懸命やればそれだけ達成感が感じられ成長につながる、と決め付けみんなにその経験を押しかけてしまっていた。しかし彼らが何を感じているかは目には見えず、また成長につながるかはたった2日間では分からない



ことだ。

後日、YRMメンバーで週末キャンプに行った時、手首を骨折しているメンバーがひたすらカレーを混ぜていて、みんなが「代わるよ」と言う中「いや、やらせてくれ! 普段アメリカの学校では英語ができなくて輪に入れなくて全然役に立ってないんだ。こういう時だけでも役に立ちたいんだ!」と言っていてハッとした。言葉にして聞かえたからこそ分かったけれど、誰かの役に立ちたいという想いを持っているYRMメンバーは他にもいるはずだ。私たちは目に見えないものを相手にしながら人の成長を願い、公正で平和な社会を作ることを目指す。それは実感を持ちづらいが全ての小さな活動がきっと豊かな未来につながっているはずと信じ日々の仕事に前向きに取り組もうと思った。

(東京・NYフロストバレーパートナーシップ 池田麻梨子)



村杉さんは1973年29歳の時にYMCAをサポートする「東京グリーンワイズメンズクラブ」の設立に携わると同時に東京YMCA会員となる。以後、会員部運営委員長など数々の委員を務め、2014年9月から理事に就任。毎月1日の早天祈祷会には無欠席で奉仕するなど、誠実・勤勉な人柄で多方面にわたり貢献された。2018年3月28日、74歳で召天。17年度ボランティア・オブ・ザ・イヤー受賞。

息を引きとる前の最後の言葉が「もう終わり、終わる……」であったと一榮夫人が話してくださいました。私はまだまだ、もっともっと長く活躍してほしかったです。誠に残念でありません。

4月2日、日本キリスト教団浅草教会での葬儀前夜式は、すべての席が埋まり、教会に入れない300人以上の方々が周辺を取り囲んだ中で葬儀が始まりました。これほど多くの方が参列された光景は、教会、YMCA、ワイズメンズクラブ、興望館、地域はじめ多くの諸団体に奉仕された村杉さんのお人柄、人徳を物語っていました。改めて克己さんに敬意を表し、思い出と思うことは山ほどあります。1973年、東京グリーンワイズメンズクラブの設立メンバーとして活動を始めた後、「下町にYMC Aの輪を拡げよう」の

【追悼】

村杉克己さんを偲んで

東京北ワイズメンズクラブ 磯部成文

45年以上にわたるワイズズの例会出席率100%を継続されたことです。日本はもとより世界のワイズメンの中でも類まれなお働きでした。クラブはもとより、関東、東日本、東日本のさまざまな重要な役割を一榮夫人とともに長年担ってこられ、日本のワイズ活動にはなくてはならない人、として多くのワイズメンから尊敬されました。